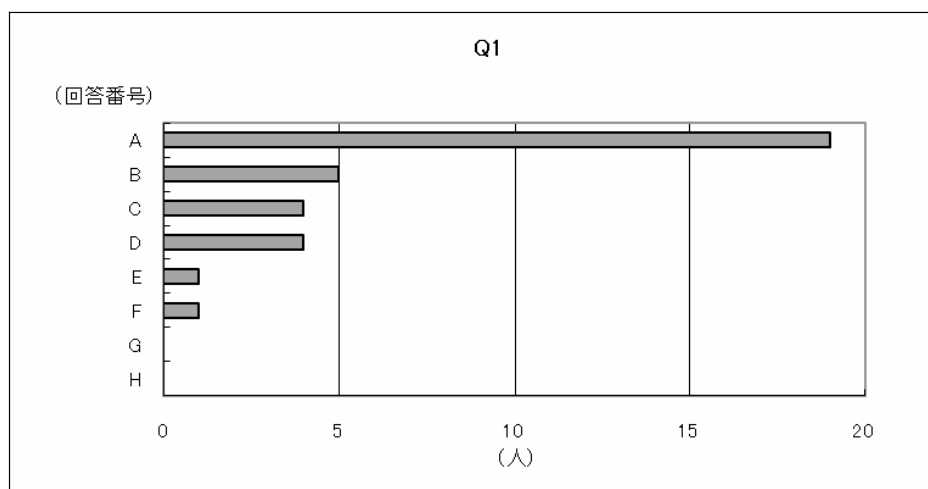


## VI アンケート集計結果

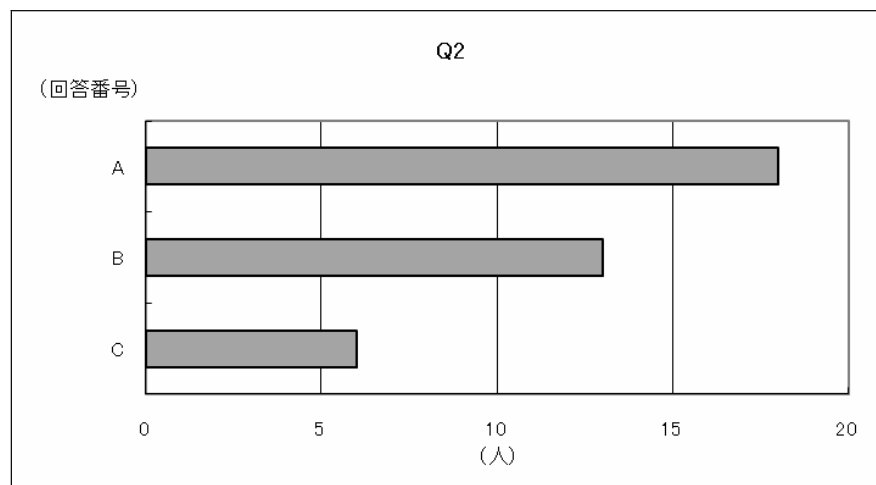
「アクセシビリティ・セミナー」 参加者 75 名  
アンケート回答者 37 名

### Q1 お立場は？



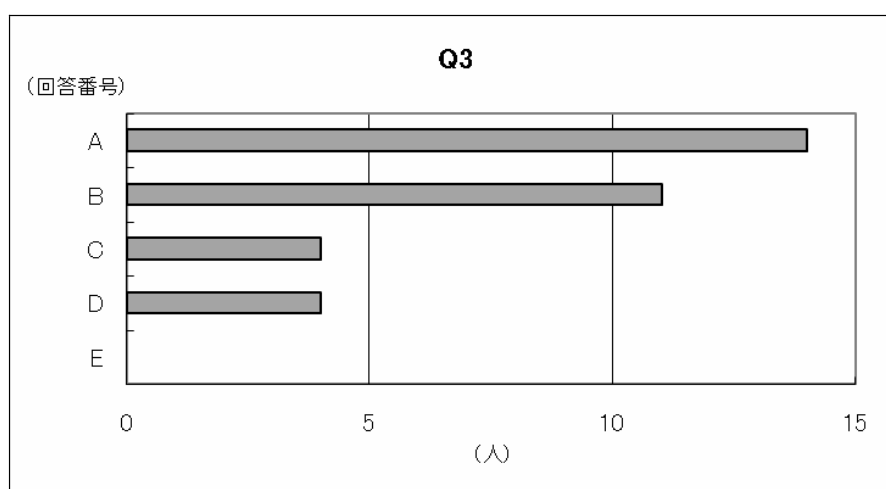
A: 広島大学教職員	19
B: (広大以外の)大学教職員	5
C: 広島大学在校生	4
D: 高校,高専教職員	4
E: 保護者	1
F: (広大以外の)大学生	1
G: 高校生	0
H: その他	0

Q2 どちらからお越しですか？



A: 東広島市内	18
B: 広島県内	13
C: 県外 (岡山県, 東京都, 静岡県)	6

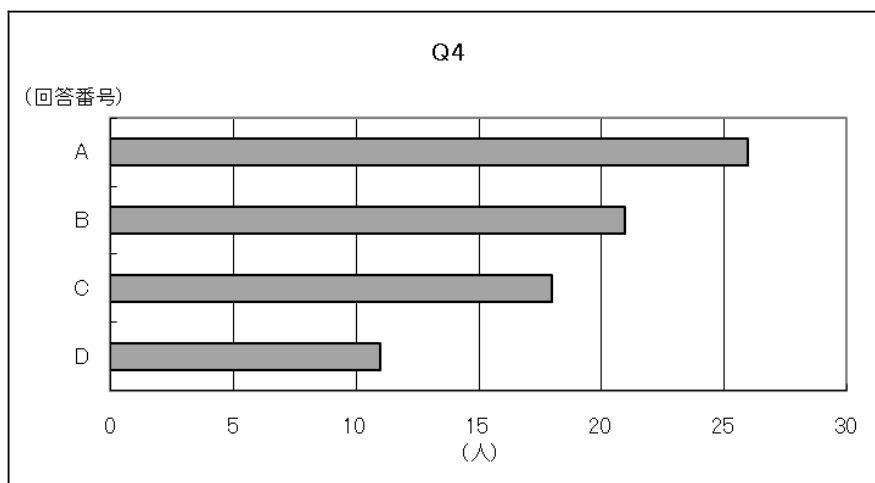
Q3 この講演会をどこで知りましたか？



A: その他(学内案内, アクセシビリティセンターからの紹介, 知人からの紹介, PEP NET, メールリスト等)	14
B: ダイレクトメール	11

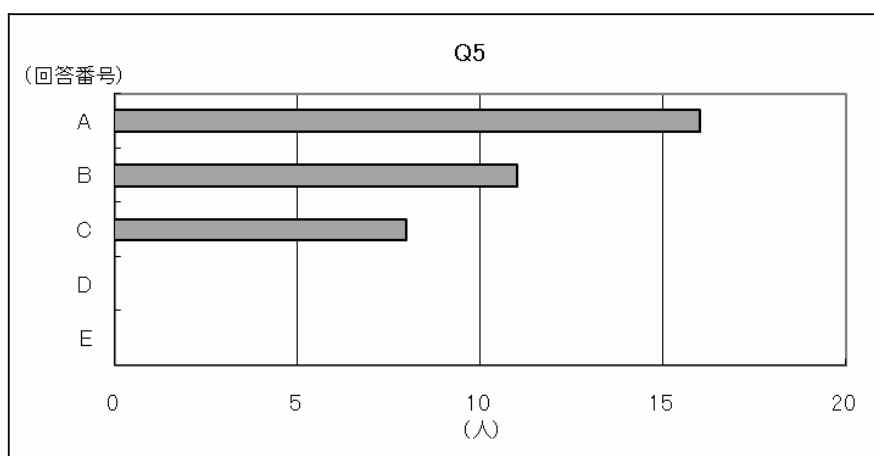
C:ポスター	4
D:ホームページ	4
E: 新聞	0

Q4 各講演の内容はいかがでしたか？関心を惹かれた講演すべてに○をつけてご記入ください。



A: 広島大学におけるアクセシビリティ支援・人材育成について	26
B: 大学入学センターにおける受験特別措置について	21
C: 障害学生の就職の現状と傾向について	18
D: 広島大学における就職状況とキャリア支援について	11

Q5 セミナーの内容は全体的にいかがでしたか？



A:良かった	16
B:非常に良かった	11
C:普通	8
D:良くなかった	0
E:悪かった	0

**Q6 大学入試, 大学における支援, 就職の現状に関して, 今回のセミナーで初めて知ったことや, さらに詳しく知りたいことなどありましたらお書きください。**

- ・学生リーダーの側からの意見も聞けたら良い。障害学生(在校生)の活も広大のアクセシビリティの検証の観点から聞いてみたい。
- ・サーナには以前から興味があり, 詳しく知ることができてよかったです。よく, 障害者雇用に関し, 法定雇用率がひとつの指標として挙げられますが, 企業ではなく法人(独立行政法人など)の雇用率が低いというのを耳にします。現状がどうなのでしょう？
- ・大学入試センター試験のイヤホン不適合者が約 4000 人近くもいたこと, また当日にイヤホンの不適合を申し出たのが約 1500~2000 もいたこと。
- ・イフ総合研究所の存在と活動内容
- ・広大でアクセシビリティ教育を行っているのは知っていましたが, その効果までは知りませんでした。支援される共側とする側がに授業を受けることに意義があるという部分には, なるほどなと思いました。
- ・一方で, 上先生からもあったように, 多様性と言う言葉はとてもプラスなイメージですが, どこまでが多様性を求めるべきなのか, どこからは逆に協調を求めるべきなのか, 判断が難しいと感じました。
- ・情報の共有と活用の重要性
- ・広島大学以外の中国地区(県内を特に)の大学の支援体制についても詳しく知りたいと思いました。
- ・アクセシビリティ支援などの言葉すら知りませんでした。今回のセミナーに参加してとても勉強になりました。
- ・アクセシビリティということ
- ・障害学生のための情報誌, サイトの存在
- ・アクセシビリティリーダー育成, 全学的な取り組みですばらしいですね。
- ・広島大学アクセシビリティセンターの活動
- ・雇用の際に企業が一番気になったことが「企業研究」だったことに驚いた。センター試験において「その他」の項目への特別措置申請が年々増加して知ることが課題と言いながら, 個々人への対応はできないと言う。では今後どうするつもりなのかが気になる。

**Q7 障害のある高校生の大学進学を困難にしている要素には, どのようなものがあるでしょうか？課題として感じている点があれば, お書きください。**

- ・障害に対応している内容が大学から情報発信されていない現状に不安があり、これが進学困難となっていると思う。
- ・色々あると思いますが、一つの要因として、高校の進路指導も一つの要因ではないかと思います。  
就職へ傾いていたり、進路指導担当者が障害学生支援に関する知識が乏しいのではと思います。
- ・自分自身が障がいのある方の問題点等を理解しきれていないので、特に掲載すべき課題が見つかりません
- ・授業における理解が不足(学校での支援体制の強化)
- ・入学から卒業(就職等)における大学の目に見える支援プログラムの策定、公開等
- ・大学入学後の支援体制への不安(保護者の不安)
- ・高校の現場で障害のある高校生にできることが限定されているので、特に普通科では毎年障害のある生徒は入学するとは知りませんでした。そのため学校側の積み重ねがほとんど無の状態である。高校での障害のある生徒への支援がもっと行えるといいのですが。
- ・景気、企業の方針
- ・大学内部よりも、通学状況や生活状況が進路を定めるポイントになってしまうことがある。
- ・特別支援学校と大学の学び方の違い。
- ・社会、親の無理解
- ・情報不足も相当あるかと思います。
- ・以前と違い、徐々ではあっても障がい者に対する意識、各種支援が高まってきた事のPRが、社会システムとして不足している事も一因ではないか。
- ・障害をもつ学生同士のタテ・ヨコのつながり強化を支援してあげる仕組みも必要ではないか。
- ・センター特別措置申請のハードルが高すぎる。例えば、時間延長該当者と普通の受験者の中間層に含まれる人々が大勢いて、彼らは実際受験で困難を抱えている。

**Q8 受験から就職までを滑らかにつなぐために、必要な障害学生支援のあり方に関して、ご意見、ご感想をお聞かせください。**

- ・大学の個々の情報発信重要であるが、ある中心大学がまとめて情報発信も利便性があるので。(入学、教育、収束などの情報)本人はもとより、保護者等の理解を十分していただくことが重要では……。
- ・「受験から就職まで」ということを考える際、障害学生支援という大学の枠だけでは収まらないことは明白です。より幅広い関係者を巻き込んだかたちでこのようなセミナーの開催は意義はあるのではないかと思います。
- ・今回のセミナーの副題「受験から……つなぐ障害学生支援」と4つの意識との関係。関連が捉えに「をつなぐ」と言う視点での講演内容になっていなかったと思います。これからの関係・関連を各受講者が理解し、又は考えることが目的であったのかもしれませんが、そのためには参加以前の知識等が必要であり、あるいみで「専門家のための集まり」のように感じました。
- ・入学から卒業(就職等)における大学の目に見える支援プログラムの策定、公開等
- ・私は高校の教員をしておりますが、学校の求人票には障害に関する雇用について一切書かれて

おらず、本人が希望した企業に1社1社問い合わせるという方法を取っています。このほかに方法があればよいのですが、ひと目見て障がい者枠が分かるような求人票というものがあると良いと思いました。

- ・広島大学のようなキャリアデザインの明確化が進学への道筋を作っていくのではないかと感じた。
- ・プロコーディネーターの配置
- ・異なる section の連携ではないでしょうか。

**Q9 今後のアクセシビリティ・セミナーで取り扱ってほしい内容があれば、お知らせください。**

- ・学生側の意見を聞いてみたい。
- ・障害学生同士のつながりができたらいいと思いました。
- ・学習障害、発達障害
- ・高等学校からの取り組みの報告
- ・大学での取り組みを聞いた感想
- ・より接続を円滑にしていくための方策
- ・企業側から企業における支援内容と課題(支援に対する意識)
- ・今回の佐野アクセシビリティセンター長の講演にありました“アクセシビリティ”の概念に沿ったセミナーの開催を希望します。今回のセミナーは全体として以前の“バリアフリー”の域から出ていなかったと感じましたので。ただし、副題から判断して、上記の域に限定したものであったと理解することもできますが……。
- ・障害を有する学生からの話もできる(聞ける)形式のセミナー、就職に関しては、採用に熱心な企業人事担当者との意見交換会など。
- ・佐野先生のお話にもあった「アクセシビリティリーダー育成プログラム」について、学生の実践についての状況と、支援を受ける側の感想、状況についての報告がうかがえればと思います。
- ・就職関係についてお願いします。
- ・具体時な事例や、高校側が大学の支援状況をチェックするためのポイントを学ぶ機会。
- ・広島大学内の障害学生支援について。PDCAのDoの部分についてもう少し詳しく聞いてみたい。
- ・他大学との合同セミナーも面白い(国外も含めて)ではないでしょうか。